



平成28年8月12日

各 位

会 社 名 ラオックス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 羅 怡 文
(コード番号 8202 東 証 第 2 部)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 矢野輝治
(T E L 0 3 - 6 8 5 2 - 8 8 8 0)

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年2月12日に公表した平成28年12月期（平成28年1月1日から平成28年12月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。また、併せて特別損失の計上についてもお知らせ致します。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 平成28年12月期通期連結業績予想の修正（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり 連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円・銭
前回発表予想 (A)	100,000	7,000	7,000	—	—
今回修正予想 (B)	65,000	1,250	1,250	—	—
増減額 (B-A)	△35,000	△5,750	△5,750	—	—
増減率 (%)	△35.0%	△82.1%	△82.1%	—	—
(参考) 前期実績 (平成27年12月期)	92,693	8,586	8,637	8,079	127.84

(注) 平成28年7月1日付で、普通株式について10株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 修正の理由

売上高に関しては、円高の影響や訪日観光客の商品ニーズの変化により、昨年1年間の平均購買単価33,820円に対して、当第1四半期が27,369円、当第2四半期が22,922円と大きく下落しており、今後も昨年対比では下落する見込みであるため業績を修正することといたしました。また、平均購買単価が下落し売上高が減少する状況下にあるため店舗数の増加に比して売上高が伸び悩み、店舗数の増加による固定費を吸収することができない見込みとなったため、営業利益、経常利益ともに修正することといたしました。

2. 特別損失の計上について

平成28年12月期第2四半期（平成28年1月1日～平成28年6月30日）の連結決算について、下記のとおり特別損失を計上いたしました。

（1） 当社

海外事業（旧貿易仲介事業）における電動アシスト自転車販売の撤退に伴う損失として191百万円を計上いたしました。

（2） 国内子会社

国内リテール事業（旧国店舗事業）における店舗のリニューアルに伴う固定資産除去損失として16百万円を計上いたしました。

（3） 中国子会社

海外事業（旧中国出店事業）における店舗閉鎖に伴う店舗整理損として283百万円を計上いたしました。

3. 業績への影響

本日公表の「平成28年12月期第2四半期決算短信[日本基準]（連結）」に反映しております。

以上